

「ナガミヒナゲシ」駆除のおすすめ

ナガミヒナゲシは、1961年に世田谷区で最初に発見された比較的新しい外来植物で、近年は千葉市周辺にも急速に広がっています。オレンジ色の花が可憐で美しいのですがもともと地中海沿岸原産の雑草です。驚異的な繁殖力で生態系へ影響を及ぼす可能性もあるとのこと。



↑
当マンション内(駆除しました)

↑
近隣の道端

花と未熟な実の状態 →

一つの実に平均1600粒の種子が内蔵されており、一個体から100個の実をつけることもあるので、最大で一個体から15万粒の種子が生産され、未熟な種子でも生育するそうです。

駆除するときには、種を落とさないようにしてください。

＜農業環境技術研究所＞ 春に気をつける外来植物：ながみひなげし

↓
<http://www.niaes.affrc.go.jp/sinfo/publish/niaesnews/090/09003.pdf>

ナガミヒナゲシはアレロパシー活性が強く、雑草化リスクが大きいので、広がらないようにする必要があります。

アレロパシーとは、ある植物が作る化学物質が、他の植物・微生物・昆虫・動物などに、直接または間接的になんらかの作用を及ぼす現象。

アレロパシー活性を評価項目に含む改良FAO方式で評価すると、特定外来生物に指定されている植物に匹敵するか、むしろこれらを上回る高いリスク点数が得られました。

文責および問合せ先：090-6517-8555(みつとみ) 植栽業者様のアドバイスにより本案内を作成しました。